

篠路まちづくり
ワークショップ

『みんなの想い』

～篠路の未来づくりに向けて～

平成 29 年 3 月
篠路まちづくりワークショップ参加者一同

篠路まちづくりワークショップ
『みんなの想い』
～篠路の未来づくりに向けて～
について





10年後の篠路の将来像を考え、どうすればより良いまちになるのか。
平成28年9月から、札幌市が主催するまちづくりに関する基調講演や
プレワークショップ、計4回のまちづくりワークショップに参加し、意
見やアイデアを出し合い、篠路の未来を描いてきました。

ワークショップの結果を取りまとめたものがこの「篠路まちづくりワー
クショップ『みんなの思い』～篠路の未来づくりに向けて～」です。

篠路のまちにお住まいの方、篠路のまちで働いている方、篠路のまち
が好きでもっともっと好きになりたい方、篠路のこれからのまちづくりに
興味を持っている方・・・。

一人でも多くの方と目標を共有し、想いを共感し、一緒にまちづくり
を進めるために、私たちが話し合ってきた「篠路の未来づくり」への考
えや想いをここに取りまとめています。

より良い地域にするためには、まずは篠路地区にいるみんなで一体と
なりまちづくりを進めていくことが重要であると考えています。

篠路の今を見つめ、想像した10年後の篠路の姿を実現するために。
さあ、みんなで篠路の未来をつくっていきましょう！

平成28年度 篠路まちづくりワークショップ参加者一同

篠路駅周辺のまちづくりについて

JR篠路駅周辺地区では、事業化が検討されている土地区画整理事業・鉄道高架事業・周辺道路整備事業などのインフラ整備事業により、これまで大きな課題となっていた交通問題や弱い社会基盤を再生し、札幌市の地域交流拠点^(※1)にふさわしい都市環境を形成する検討が進められています。

しかし今、超高齢社会と人口減少、そしてライフスタイルの多様化など「まちづくり」を取り巻く社会環境が大きく変わってきています^(※2)。

これら社会環境の変化は、札幌市全体においても、そして篠路駅周辺地区においても同様です。

これからつくられる「まち」を、どのように作り、どのように活用し、どのように育て、そしてどのように次代を担う子どもたちに引き継ぐか。

事業化が検討されている様々なインフラ整備事業を契機（チャンス）と捉え、篠路駅周辺地区にお住まいの方、ご商売をされている方、そしてこの地区を訪れる方すべてに愛されるまちづくりを、そして未来づくりを進めるために、平成28年9月から12月までの間に、篠路の未来を描く「まちづくりワークショップ」が計4回開催されました。

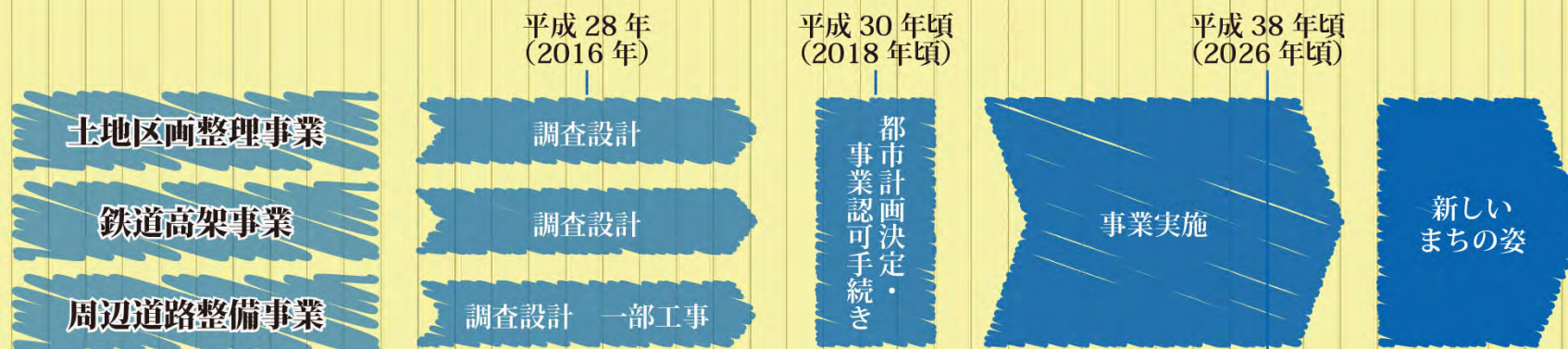
(※1) 地域交流拠点

「札幌市まちづくり戦略ビジョン（平成25年10月策定）」より、『交通結節点である主要な地下鉄・JR駅の周辺で、都市基盤の整備状況や機能集積の現況・動向などから、地域の生活を支える主要な拠点としての役割を担う地域や、区役所を中心とした生活利便機能が集積するなど、区の拠点としての役割を担う地域』と定義され、札幌市内には17カ所の地域交流拠点が設定されています。

(※2) 篠路まちづくりセンターエリアの人口動態等

- 人口は平成27年頃から減少に転じ、20年後の平成47年には平成22年比で6.5%の人口減と推計されています。
- 年少人口(0～14歳)や生産年齢人口(15～64歳)は既に減少局面に入っています。
- 高齢化率は札幌市平均より高い水準で推移しています。
- 高齢者世帯が増加しています。
- JR篠路駅乗降者数は年々増加しています。

札幌市が進める JR 篠路駅周辺のインフラ整備事業の想定スケジュール



まちづくりワークショップについて

平成28年度、「篠路まちづくりワークショップ」は、以下のように進みました！

まちづくり講演会 (平成28年9月20日)

いよいよ本格的に篠路駅周辺地区のまちづくり、そして未来づくりが始まるに当たり、仙台市や東日本大震災の被災地をはじめ、東北各地の地域主体のまちづくりやコミュニティづくりを最前線でサポートされている足立千佳子氏にお越しいただき、「まちづくりの今、そしてこれから」についてお話しいただきました。

プレワークショップ『「10年後」の篠路と私』 (平成28年9月20日)

「プレワークショップ」は、これから始まる全4回のワークショップに先立って開催する事前準備で、「ワークショップ」の進め方等について共有するとともに、参加者のみなさん同士のコミュニケーションを深め、より価値と意義のあるワークショップとするために開催されました。ここでは、「勝手に想像！10年後の篠路ニュース」をみんなで作りしました！

第1回ワークショップ『まちの将来像を考えよう！』 (平成28年9月21日)

「10年後に篠路がどんなまちになっていると良いか」をテーマに、それぞれが考える魅力的なまちのイメージを考え共有しました。

第2回ワークショップ『将来像の実現に向けた目標を設定しよう！』 (平成28年10月19日)

将来像を実現するため、まちづくりのキーワードをもとに将来像を実現するために必要な取り組みを考えました。

まち歩きツアー (平成28年11月16日)

第3回まちづくりワークショップに向けたミーティングの中で、参加者の方から、「まちの魅力を再発見しよう！」というアイデアが出ました。そこで！第3回まちづくりワークショップ前に、「みんなで篠路のことをもっと知り、もっと篠路を好きになろう！」を目的とした「まち歩きツアー」を開催しました！

第3回ワークショップ『まちづくりの取り組みを考えよう！』 (平成28年11月16日)

目標を具体的に実現していくために必要な取り組みを考えました。

第4回ワークショップ『検討結果をまとめよう！～まちづくりビジョンに向けて～』 (平成28年12月21日)

第3回までに検討してきた成果について、内容を取りまとめました。また、これからの活動（ファーストステップ）の検討を行いました。

しのろ紙袋ランタンまつり (平成29年2月18日)

まちづくりの行動計画で「今すぐできること」のアイデアとして、「昨年篠路コミュニティセンターで行っていたランタンまつりを駅前で行いたいね」との声があがったことから、「しのろ紙袋ランタンまつり」を駅前にて開催しました。



まちづくり講演会ゲストプレゼンター
足立千佳子さん

まちづくりワークショップファシリテーター。仙台を拠点に東北をはじめとした各地において協働のまちづくりを推進する傍ら、(特活)まちづくり政策フォーラム理事、みやぎ・やまがた女性交流機構理事等として、地域の視点に立った政策提言や活動展開を図っています。

杜の都仙台市のコンパクトシティを牽引し、次世代に向けた新しいまちづくりを目指す「仙台駅東エリアマネジメント協議会」の事務局長として、まちづくり組織の運営や地域活動のコーディネートを実践しています。

足立千佳子さんからの アドバイス

- まちづくりは、インフラ整備が完了したら終わりではなく、できたまちをどう活用するかが重要！
- 「自ら動く」ことをモットーに、多様な方々とのネットワークを構築して地域主体のまちづくりを進めましょう！
- 地域協働のまちづくりは、背伸びをし過ぎず、できるところから動いていきましょう！
- 仙台では、歩道を活用したマルシェや、まちなかに休憩スペースを設ける社会実験など、公共空間を利活用した事業もやっています！
- 持続的な活動のためには、自主財源を確保する仕組みも必要で、住民間の連携だけでなく、周辺事業者の協力も得られるような活動も重要です！

将来像と3つの機能像、6つのまちづくりの視点

計4回のワークショップでは、10年後の篠路がどのような地域になっていると良いかを考えてきました。ワークショップ内でアイデアを出し合い検討した将来像を、広域の「篠路地区」と「篠路駅周辺地区」それぞれについてまとめました。

広域の「篠路地区」の今

広域の篠路地区には、多くの方に知ってもらいたい文化資源（開拓の歴史や水運、篠路神社など）や自然資源（旧琴似川や五ノ戸の森など）があり、また、生活するのに不可欠な便利施設（スーパーや郵便局、銀行など）もある程度揃っていることが住んでいる方々にとっての魅力や誇りとなっていることが確認されました。

しかし、高齢化が進む中で、高齢者にやさしい地域内交通、若い方に「住む場所・行く場所」として選んでもらうための機会や場、情報などが不足しているという課題も確認されました。

「篠路駅周辺地区」の今

札幌駅から電車で約20分という利便性の高さに加え、篠路地区が誇る文化資源・自然資源への近接性が篠路駅周辺地区の魅力の一つであるようです。一方で、高齢化への対応や、子どもや高齢者などの各世代が集まれる場、立寄れる場の不足がまちの課題として実感されています。

子ども・若者・子育て世代・高齢者など様々な世代が集い、憩い、豊かに暮らすための拠点となるとともに、篠路地区にある文化資源・自然資源とふれあう機会を増やすための交通や情報の拠点としての性格が求められています。



広域の「篠路地区」と「篠路駅周辺地区」、それぞれの良いところや課題を踏まえながら、これから10年後の「篠路」が『こうあって欲しい!』という想いをまとめました。これを『将来像』として掲げます。

また、ワークショップで出された意見を整理すると、機能ごとの分類やキーワードが見えてきました。これを将来像を実現するための『3つの機能像』、そして『6つのまちづくりの視点』として掲げます。

次ページ以降では、この『3つの機能像』と『6つのまちづくりの視点』別に、ワークショップ参加者のみんなの意見を分類し、まちづくりを進めるための方針を導いています。

将来像

広域の「篠路地区」の将来像

誰もが暮らしやすく 笑顔あふれるまち

子どもたちも、若い方も、子育て世代も、高齢者も。

誰もが「篠路に暮らして良かったな」と思えるような、安心安全で、笑顔があふれる元気で愛情いっぱいの明るいまち。

私たちは、そんなステキな篠路地区を目指します!

「篠路駅周辺地区」 の将来像

暮らしを支え つなぎの起点となり 篠路の魅力を育み伝える 機能の集約した拠点

暮らしを支える都市機能が集まり、地域の日常的な活動や来街者の活動を生み育む場を創出し、そして地域のみみんなが協働し、たくさんの活動と笑顔があふれる。

土地区画整理事業が計画されているJR 篠路駅周辺では、ステキな篠路を牽引する活力あるまちづくりを進めます。

3つの機能像

10年後の
まちの機能像①

『暮らし』を 支えるまち

10年後の
まちの機能像②

『つなぎ』を 紡ぐまち

10年後の
まちの機能像③

『魅力』を 創造するまち

6つのまちづくりの視点

『住まいを豊かにする』という視点

良好な居住環境の形成や、多世代居住などによる世代を超えたつながりづくりなど、「住まいを豊かにする」という視点でまちづくりを考えました。

『にぎわいをつくる』という視点

日常的な買い物施設や飲食施設の存在、地域の企業との連携など、「にぎわいをつくる」という視点でまちづくりを考えました。

『まちの資源を活かす』という視点

これまで篠路が積み重ねてきた歴史や文化を体験・伝承する機会の創出や、地域の情報の積極的な発信など、「まちの資源を活かす」という視点でまちづくりを考えました。

『回遊性をつくる』という視点

誰もが歩きたくなる環境づくりや、地域内外のアクセス性の向上など、「回遊性をつくる」という視点でまちづくりを考えました。

『土地利用や街並みを考える』という視点

適正な土地利用や、これからの篠路を象徴するような魅力的な景観づくりなど、「土地利用や街並みを考える」という視点でまちづくりを考えました。

『まちを活用する活動』という視点

多様なアクティビティにより、使い切れていない既存の場所やこれから生まれる場所を最大限に活用していくなど、「まちを活用する活動」という視点でまちづくりを考えました。

今の「住まい」へのイメージ

こんな意見がありました！

広域の篠路地区

- ・西側は開けている（住宅街として）イメージ
- ・福祉のまち、高齢者が多い
- ・住人が素敵な人（多彩な、愉快的高齢者）が多い
- ・独居老人が安心して暮らせる体制が必要
- ・のんびりして良い
- ・篠路地区及び周辺地区の水害対策が急務
- ・スーパー、銀行、郵便局などが徒歩圏にあって住みやすい
- ・除雪が大変、捨てる場所もなく冬道が狭くて危険
- ・事件が多い

篠路駅周辺地区

- ・閑散としている、東側は何も無い
- ・休日の買い物場所は西側、暗くてちょっと怖い
- ・意外と静か
- ・近所付き合いが良い、知り合いによく会う
- ・人口が少ない
- ・スーパーや銀行などがあり便利
- ・歩ける範囲で買い物の用事が済まない
- ・篠路地区は本屋さん無く、まちは高齢化

今の「にぎわい」へのイメージ

こんな意見がありました！

広域の篠路地区

- ・知名度が低い
- ・飲める場所や（オシャレな）飲食店がない
- ・昔風で田舎のイメージ
- ・篠路の中心市街地は東8丁目篠路通と横新道の交差点あたり
- ・中心市街地が無い
- ・篠路（位置・存在）や昔の何もないイメージを持った人が多い

篠路駅周辺地区

- ・飲みニケーションをする場が無い
- ・飲食店が少ない
- ・商店が少ない、駅前なのに商店街が無いのでさびしい
- ・昔は商店が立ち並んでいた
- ・駅前にコンビニや悪い場所など立ち寄れるところが無い
- ・老健施設ばかりになっており、計画的でない
- ・わざわざ行くところではない
- ・駅の西口・東口とも駅前が閑散としている
- ・線路を挟んで東西の活気が違う（東側は暗い）

住まい



良好な居住環境の形成や、多世代居住などによる世代を超えたつながりづくりなど、『住まいを豊かにする』という視点

にぎわい



同等的な買い物施設や飲食施設の存在、地域の企業との連携など、『にぎわいをつくる』という視点

10年後の まちの機能像①



『暮らし』を 支えるまち

10年後はこんなまちに！

広域の篠路地区

- ・若者が住みたい地域NO.1に！
- ・老後の運動施設がある（プール・体育館）
- ・安心・安全で豊かな暮らし（支え愛・助け愛）
- ・駅東口を文教地区に（飲食店はいらない）
- ・人間関係の希薄さなし

こんな意見がありました！

篠路駅周辺地区

- ・駅周辺に高層マンション、学生寮等（道内各地からの受入）
- ・出張所のミニ区役所化
- ・インフラの整備（都市ガス導入）
- ・駅と出張所を合体している
- ・マナーの良い場所になっている
- ・行政・図書館・コミュニティセンターを1つの建物にして
駐車場と公園をつなげる
- ・子育て中のママが子どもと一緒にくつろげる場所
- ・コミュニティセンターの駅前移設
- ・複合施設、出張所（保育所・図書館・資料館）



「住まいを豊かにする」まちづくり方針

方針1 安全安心なまちづくりを進めます！

方針2 学生や若い方々が住みたくなる環境づくりを進めます！

方針3 生活利便性の高いまちづくりを目指します！

実現に向けた取組例

- 行政機能を駅前に集約・複合化すること
- 地域活動を活発化させること
- 雇用を創出するような環境
- 教育機関との連携
- ファミリータイプや学生向けなど多様な住戸を供給すること

- 若い方々にもまちづくりに興味を持ってもらうために、情報をオープンにすることはもちろん、SNSなどを使い積極的に発信していこう！

こんな意見がありました！

10年後はこんなまちに！

広域の篠路地区

- ・誰もが一度は訪れたいまち
- ・若者や家族連れが休日になると遊びに来る人気スポット
- ・外国人の観光が増加
- ・おいしい飲食店がたくさん
- ・篠路独自の名物ができて世界から人が来るまち
- ・市街地の高度利用化
- ・買物難民のいない自由にショッピングを楽しめるまち
- ・経済の活性化

こんな意見がありました！

篠路駅周辺地区

- ・駅前に行政と商業の機能を
- ・専門学校の設置
- ・様々な食文化を持った学生向け食堂
- ・高齢者が集まって楽しい時間を過ごせる場所
（飲食、趣味、販売）
- ・市民交流の拠点を作る、映画館などができるといい
（レンタル倉庫の活用）
- ・商店街・お店の連続、宿泊施設や温泉施設
- ・飲み屋・コンビニ・喫茶店・飲食店
- ・人通りが多くなっている



「にぎわいをつくる」まちづくり方針

方針1 まちと地域の企業や事業者がつながる関係づくりを進めます！

方針2 魅力的な個店が並び魅力的なサービスが提供されるまちづくりを進めます！

実現に向けた取組例

- 企業立地の促進とまちづくりへの企業参画・協働への働きかけ
- 起業者・事業者に対する地域ぐるみの支援（場・情報発信）
- マーケティングを兼ねた社会実験の実施

- 一体的にまちづくりを推進する体制や仕組みが必要だね！
- 試行錯誤を繰り返すことも必要！
- 地域主体で取り組む意識が重要だね！

こんな意見がありました！

「まちの資源」へのイメージ

こんな意見がありました！

広域の篠路地区

- ・きくやのあんころ玉は札幌駅のデパートにも
- ・パン屋さんが出来た
- ・木田製粉はかつて、地元小学生のおこがれの企業！
- ・意外とおいしいものが多い

篠路駅周辺地区

- ・自然が豊かな地域、川・森・草原に野鳥が多い
- ・四季を楽しめる
- ・藍染や歌舞伎など古き良き伝統・文化がある
- ・若い人に歴史を伝える場所が無い
- ・宅地と農地の境目が明確
- ・歴史文化のある町（篠路神社・龍雲寺・五ノ戸の森・開村165年）
- ・龍雲寺は安政時代船着き場で、水運が交通の要だった
- ・他の地域から遊びに来ようとは思わない

「回遊性」へのイメージ

こんな意見がありました！

広域の篠路地区

- ・篠路駅へ、東西をつなぐ交通機関が無い
- ・車が交通手段の中心
- ・バスは通勤・通学・通院の利用者が多い
- ・交通の便が良い（JR、地下鉄、バス、航空）
- ・線路でまちの東西が分断されている
- ・篠路エリア外から見ると、東西に違いは無い
- ・交通体系が悪い、循環バスがあればよい

篠路駅周辺地区

- ・駅が近くて便利・交通の便が良い
- ・JR利用が出来ない場合の交通が不便
- ・札幌に行くならバスよりJRの方が早い
- ・家族で出かける時はJRより車が便利
- ・東側の駅前の道路が狭いので通りたがらない
- ・踏切の時間が長く、車が混雑している
- ・東西の意識差を感じている人といない人がいる
（東側居住者は西側を利用するが西側居住者は東側を利用しない）
- ・サロンや商店、病院など使える場所やサービスが周知されていない
- ・情報発信が乏しい
- ・病院への行き来が不便
- ・ハードの整備をするのかしないのか

まちの資源



これまで篠路が積み重ねてきた歴史や文化を体験・伝承する機会の創出や、地域の情報の積極的な発信など、「まちの資源を活かす」という視点

回遊性



誰もが歩きたくなる環境づくりや、地域内外のアクセス性の向上など、「回遊性をつくる」という視点

10年後のまちの機能像②



『つなぎ』を紡ぐまち

10年後はこんなまちに！

広域の篠路地区

- ・篠路の良さを誰もが語れるまち
- ・適切な情報発信・共有
- ・文化や名所案内、マップでPR
- ・篠路の新たな農産ブランドができる
- ・歌舞伎や藍のことを小学生に聞いてもらえる場所
- ・外国人の観光が増加し、歴史館などで篠路を伝承
- ・今の50代が各種団体の代表に（人材確保）

こんな意見がありました！

篠路駅周辺地区

- ・気軽に立ち寄れる地域情報スペース（自由空間）
- ・歴史・文化を活かす拠点の設置（歴史資料館・郷土資料館など）
- ・伝統や文化の継承・育成・情報発信
- ・杜寺などの地域資源の活用
- ・篠路の歴史を伝えられるような建物が出来るといい

10年後はこんなまちに！

広域の篠路地区

- ・駅を中心に循環バスが篠路地区を走って便利施設をつないでいる
- ・子どもも高齢者も安心して自転車で移動できる環境
- ・各団体所有のバスを活用した交通ネットワークの確立
- ・高齢者の足となるコミュニティバス
- ・茨戸、屯田地区からの住民がJRを利用するようになった
- ・札沼線の高架、東西交通網の完成
- ・篠路駅を中心に東西が一体化
- ・駅を中心にバス路線を増やし暮らしやすいまちへ

こんな意見がありました！

篠路駅周辺地区

- ・誰もがゆったり歩ける道路整備
- ・篠路の魅力がストーリー化された遊歩道の整備（開拓の歴史、継承された文化、豊かな自然、農業・治水等）
- ・東西の自由連絡
- ・公益施設（コミセン等）までのバリアフリー
- ・融雪設備（ロードヒーティング）の完備
- ・ウォーキングコースの活用



「まちの資源を活かす」まちづくり方針

方針1

歴史文化の発信や自然体験を行う場づくりを進めます！

方針2

様々な地域資源情報を発信できる駅前の環境づくりを進めます！

実現に向けた取組例

- 歴史や文化、自然を体験できる機会の提供・企画立案・実施
- まず地域内で歴史文化をしっかりと伝承する
- 地区内外に向けて情報を発信します

こんな意見がありました！

- 地域の人財や地元企業との連携・協働でやっていこう！
- 企画から実行までに必要な資金も調達しなければ！
- 既存施設も活用できるよね！



「回遊性をつくる」まちづくり方針

方針1

篠路の重要な自然資源である水と緑を体感できるまちづくりを目指します！

方針2

生活者・来訪者にとって快適な移動環境づくりを進めます！

実現に向けた取組例

- 回遊ルートコースを創出してPRする
- 篠路駅から回遊ルートまでの案内板の設置や地域内外に向けた情報の発信
- 個々のスポットの魅力をさらに向上させていく
- 地域内交通の仕組み構築

こんな意見がありました！

- 回遊ルートや地域スポットを活用したイベントの企画・運営を行うための人財確保が必要！
- まずは自分たちで「出来ることから」行動していこう！

土地利用 や街並み



適正な土地利用や、これからの篠路を象徴するような魅力的な景観づくりなど、「土地利用や街並みを考える」という視点

10年後の まちの機能像③



『魅力』を 創造するまち

活動



多様なアクティビティにより、使い切れていない既存の場所やこれから生まれる場所を最大限に活用していくなど、「まちを活用する活動」という視点

今の「土地利用や街並み」へのイメージ

こんな意見がありました！

広域の篠路地区

- ・五ノ戸の森は撮影スポット、朝写真を撮っている
- ・倉庫など、絵になる素敵な建物がある
- ・川や農地があって環境が豊か

篠路駅周辺地区

- ・昭和のニオイ=暗い
- ・暗い時間には歩きたくない
- ・川がある
- ・旧琴似川にごみを捨てていく(マナー)
- ・駅のすぐ近くに旧琴似川・河畔林などの自然が多く、遊歩道も整備されている
- ・古いレンガ倉庫は住んでいる人にも訪れる人にも貴重、まちづくりに利用すべき
- ・駅前に倉庫が立ち並んでいるイメージ
- ・東側に街路樹が少ない
- ・きれいな花が咲いている
- ・まちにまとまりが無い

今の「活動」へのイメージ

こんな意見がありました！

広域の篠路地区

- ・自己の町内活動等は活発
- ・子どもが元気、子ども会主役の催し物多い
- ・チヨボウ会のボランティアが活発
- ・若者が集まる場が無い
- ・公園は多いが利用している人は案外少ない
- ・子どもが遊べる公園が少ない

篠路駅周辺地区

- ・篠路神社や神社でのお祭りは住民の楽しみ
- ・地域の交流、地主さんの発想が必要？
- ・篠路神社のお祭りは狭いけれど毎年たくさんの方が集まっている
- ・コミセンの職員があたたかい
- ・高齢者の方がゆっくりできる公園が少ない
- ・東側は空き家・空き地が多い

10年後はこんなまちに！

広域の篠路地区

- 豊かな親水空間の創出
(旧琴似川に入れるようになる アジサイがキレイに咲いている川)
- 野鳥や生物が移動出来るような緑のつながり
- 桜の木が花見の名所に
- 旧琴似川を堂が生息する川に
- 市街地の高度利用化

こんな意見がありました！

篠路駅周辺地区

- 街並み景観
- 自然環境の景観(旧琴似川の清流浄化・環境改善)
- 敷石等による個性的な駅舎
- 木陰のある公園
- 駅前が花で彩っている



「土地利用や街並みを考える」まちづくり方針

方針1 緑や花あふれる沿道景観づくりを進めます！

方針2 市街地の高度利用で機能性の高い土地利用を進めます！

方針3 人々を魅了する街並みづくりを進めます！

実現に向けた取組例

- 多様な世代向けの住戸の適正な配置
- 魅力的な店舗の誘導と連続した店舗配置
- 商店街の活性化

こんな意見がありました！

- 適正な土地利用誘導が必要！
- これから土地利用を図ろうとしている方々との連携が重要だね！

10年後はこんなまちに！

広域の篠路地区

- 水煙の活用(創成川で遊覧・屋形船)
- アイデンティティの形成(公園?博物館?イベント?)
- 子ども達が安全に遊べる場
- 夏祭りの実施、実施主体が若者になると良い
- 子どもが思い切って動ける場所、機会が豊富
- 篠路夏祭りの復活
- 地域の住民が協力し合って夏祭りや盆踊りが行われるようになった

こんな意見がありました！

篠路駅周辺地区

- ・オープンテラス常設の舞台
- ・JRの高架下
- ・空き家の活用(若者に提供)
- ・駅付近に公園があると良い
- ・孫ができたと一緒にゆっくり遊べる安全な公園
- ・倉庫の活用
- ・天気に左右されずイベントなどもできる空間
- ・街角のコミュニティスペース
- ・多世代交流ができる場所ができるといい
- ・賑わいの中心になる公園
- ・若者、子どもの声が聞こえる



「まちを活用する活動」のためのまちづくり方針

方針1 人々が集い交流する場づくりを進めます！

方針2 子ども達が楽しく元気に遊びまわれる場づくりを進めます！

方針3 地域の祭りや物販など多様なイベントを開催する場づくりを進めます！

実現に向けた取組例

- 赤レンガ倉庫・軟石倉庫等の活用
- 駅前広場の活用や民地内空地の創出・活用
- これから出来る JR 高架下の活用

こんな意見がありました！

- 農協・地権者・建物所有者との協働が不可欠だね！
- イベントや地域活動の企画・運営が必要！
- いきなりまちは変えられないので、ワークショップの場を通じて少しずつ変えていくことが重要だね！

将来像を実現するための行動計画

10年後のまちの将来像の実現に向けて、まず私たちが今できることを考えました。

出来ることから始めよう！

短期計画

できやう！

ツアーやウォーキングイベントの開催

- ✓ 五ノ戸の森で宝探し
- ✓ まちのポイント解説ツアー
- ✓ 川沿いを歩くウォーキングイベント

やります！

ボランティアガイド養成講座 開講

ツアーやウォーキングイベントを開催していくため、平成 29 年度、ボランティアガイド養成講座を開講していくことになりました。

現地を見ながら篠路に関する知識を蓄積し、まずはとにかく始めてみよう！ということで、養成講座の卒業生で事務局チームを結成予定です。

定期的・継続的にツアーを開催し、情報が整ってきたら、自然ツアーや歴史ツアーなどバリエーション展開もできるかも知れません！

できやう！

駅前イベント実施

- ✓ ランタンまつりの駅前開催 (冬)
- ✓ 駅前オープンカフェ (春～夏)
- ✓ 珈琲を提供
- ✓ 小物や野菜の販売をあわせて行う

やりました！

篠路のイベントをつくろう 第1弾！

駅前でこんなイベント実施したいねという意見がいくつか出た中で、どのような取り組みを行っているかを検討しました。その中で、まずは昨年度、篠路コミュニティセンターで開催したランタンまつりを「篠路の冬のイベントとして定着させていこう」という形になりました。ワークショップ参加者で結成されたまちおこしチームを中心に、J R 篠路駅をはじめとした周辺関係者にご協力いただき、本年度は駅前で開催することができました。

コミュニティカフェ
つくります

レンガ倉庫外壁で
プロジェクトマッピング

中期計画

旧琴似川の環境改善

- ・ 旧琴似川の顔をはっきりさせる
- ・ アジサイを増やしたい

篠路の情報発信

- ・ 篠路の風景が入った年賀状や篠路マークを作成・広める
- ・ 食べ歩きマップの作成・配布

町内バスで回遊性の向上

- ・ 町内バス運行で（特に高齢者の）生活利便性向上

イベント等は毎月1回 定期的で開催します

- ・ 落ち葉を集めて焼き芋(秋)
- ・ かまくらで甘酒カフェ(冬)
- ・ 篠路版雪祭り
- ・ 盆踊りを復活させる

倉庫を残していく ムーブメントへ

- ・ レンガ倉庫でコンサートなどを開催
- ・ 駅前を明るくしたい

長期計画

キレイな川など自然を 満喫できる篠路へ

- ・ 魚が泳いでいる綺麗な川へ

住みたくなる篠路へ

- ・ 子育てのしやすい環境へ
- ・ 出張所が駅前に移設されている

駅前が人で賑わう篠路へ

- ・ 定期的なイベント開催で倉庫の価値が高まり、倉庫が移築され残っている
- ・ 駅前が賑わっている
- ・ 高架下に飲食店などが集まっている



これからのまちづくりに向けて

地域の方々や地域の団体がどのように未来に向けて協働してまちづくりを進めていくかを考えました。

地域みんなでまちづくりを進めよう！

今年度のまちづくりワークショップでは、ワークショップの中で出された篠路地区の課題を整理しながら、篠路の将来像や未来づくりに向けた行動計画を検討してきました。そして、次のステップとして、これらを実現するための取り組みを進めることが必要と私たちは考えます。

しかし、これからのまちづくりを進めるには、いろいろな皆様のご協力やノウハウ、実行力が必要です。

そこで、これまでも篠路のまちづくりを促進する地域団体として活動してきている「篠路地区街づくり促進委員会（連合町内会・商店街・JA・地域団体等の方々で構成）」や他の地域団体、金融機関、福祉団体、交通事業者など篠路地区に関わる多様な団体・事業者が協働する体制をつくっていくことを目指します。この地域協働によるまちづくり体制の中で、想いを一つにしてまちづくりに取り組みつつ、札幌市と制度・政策面で協力したり、また、地域のイベントや地域で活動する方々をみんなで応援します！

地域協働によるまちづくり体制のイメージ

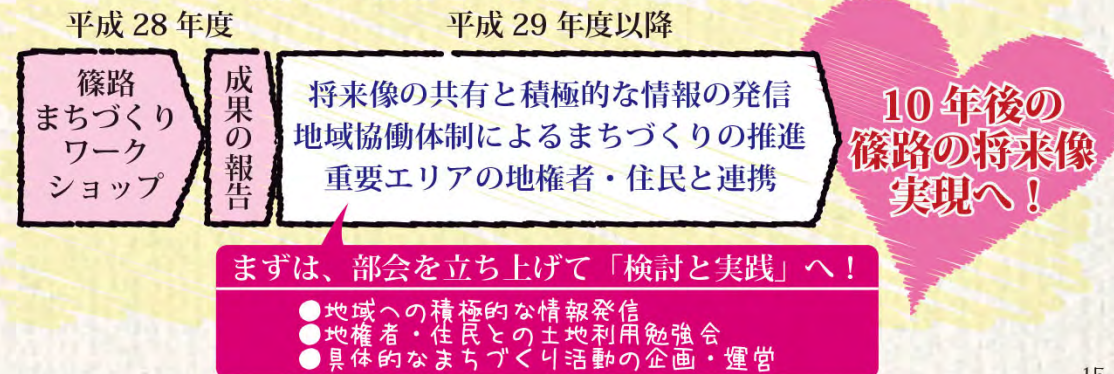


『検討と実践』を重ねよう！！

10年後の篠路の将来像を実現するためには「行動計画の取り組み」や「地域協働によるまちづくりの推進」のほか、「将来像の共有と積極的な情報の発信」、「重要エリアの地権者・住民との連携」も進め、『検討と実践』を重ねていくことが重要と確認されました。

そこで、『検討と実践』を重ねていくために部会を立ち上げ、部会による地域への積極的な情報発信や重要エリアの地権者・住民との土地利用勉強会、具体的なまちづくり活動の企画・運営などを実施していくことにより、篠路地区全体でまちづくり活動に取り組んでいきます！

『篠路の未来づくり』進め方イメージ



篠路まちづくりワークショップ 活動編

まち歩きツアー [平成28年11月16日開催]

小雪の舞う11月16日(水)、北風に負けず篠路駅周辺を楽しげに歩く集団が。この集団は、今篠路で開催されているまちづくりワークショップ(札幌市まちづくり政策局主催)に参加している住民たち。地元の魅力を再発見しようと「まち歩きツアー」を行ったのです。

メンバーたちは9月～12月までの4ヶ月間、毎月1回篠路コミセンに集まって篠路駅周辺のまちづくり、未来づくりを考える話あいを行っています。この日は第3回ワークショップの時間の前に約1時間半かけて、篠路駅、駅前の倉庫群、出張所、神社、旧琴似川、龍雲寺などを散策しました。篠路神社の敷地の奥にひっそりと建っている石碑や、川沿いの遊歩道の景観など、ゆっくり歩いてみると長年篠路に住んでいても知らなかった発見がありました。途中立寄った木田製粉では安くてもおいしいホットケーキの粉を買って喜ぶ人も。また、大正時代の古い地図を片手に歩くと、意外にも昔から変わっていない道があることに気づくことができました。

その後のワークショップでは、まち歩きツアーでの感想を共有しながら、より具体的なまちの未来像について意見交換しました。ワークショップは12月が最終回となりますが、自分たちの手でみんなの思いが実現する篠路のまちをつくっていく大事な一歩となることでしょう。

ふれあいわが街 平成28年12月掲載 (寄稿:石本依子氏)

石本やんによる篠路マップ



駅前で黒松があった痕跡探し!



篠路神社の裏の馬魂碑とカシ小松山之碑

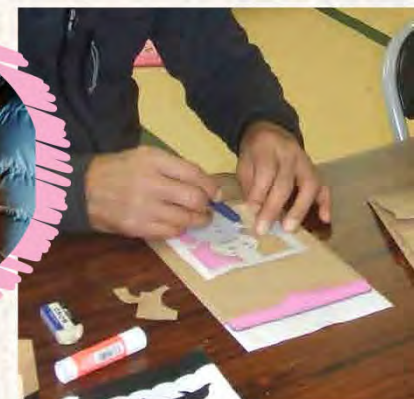


木田製粉の道産粉!

しのろ紙袋ランタンまつり [平成29年2月18日開催]



ランタンまつりポスター



昨年、篠路コミセン玄関前で開催された「紙袋ランタンまつり」が、第2回となった今年はさらに規模を拡大し、JR篠路駅前で行われました。これは昨年9月から12月にかけて札幌市主催で開催された「篠路駅周辺まちづくりワークショップ」の参加者たちが、「今年は篠路駅で行おう」と提案し、連合町内会や篠路出張所、JR篠路駅など様々な団体や企業を巻き込んだもの。「篠路の冬のイベントをつくりたい!」と、日頃コミセンを利用している地域住民や応募したボランティアたちが、紙袋に切り絵の装飾をし、JR篠路駅でも窓口で駅の利用者たちに催しを伝えるなど積極的に協力してきました。

そして当日の2月18日(土)午後6時、凍てつくような寒さの中で412個の紙袋ランタン内のろうそくに一斉に火が灯ると、美しい幻想的な世界が広がり、あたたかな光の道が浮かび上がりました。イベント開催中は9本の電車が停まり、乗降客たちも足を止めて眺め、協力した各団体のメンバーや30名のボランティアも感慨深い表情で美しい光景を見守りました。参加者たちには温かい甘酒が振る舞われ、相互交流の場としても盛り上がりしました。

わずかに数人の発案から地域を巻き込んで始まったこの紙袋ランタンまつり、10年後には冬の恒例の一大イベントに発展しているかもしれませんね。

ふれあいわが街 平成29年3月掲載





住民が安心して暮らせる、福祉も充実したまちづくりをするため、子育てから介護まで包括的ケアのシステムが必要である。そのためにも各界とも連携する。

村瀬

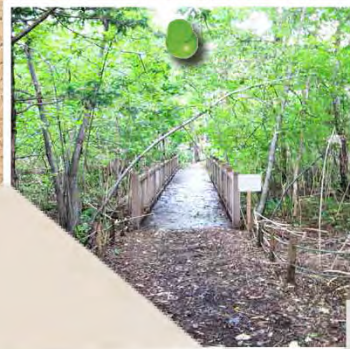
まず、地域住民のつながりを作ることが先決。そのためのPRをていねいに！
ムラちゃん



一人ひとりが大事にしたい「篠路」を出し合っ、て、「篠路らしさ」をみんなで見える化させていきたいな
石川さわ子

ランタンを地域へ拡大。多くのアイデアを頂いた。
和氣藍々

篠路の未来に向けて
のぶちゃん



ワークショップ参加者の知恵と本気・やる気・根気で、未来の篠路駅周辺の再開発で地域活性化に向けた人材・若者・よき者・バカ者を生みだしたいですね！
くまさん

実際に動く、続ける空気を感じて良かった。全てではなくとも出来るサポートをゆるす空気がほしい。情報発信がほしかったので良かった。
マルミ

まだ青写真前ですが、夢が現実になりそうな予感がして来ました！
イチロー

まちづくりへの 想い

~10年後の篠路へ~

4回に渡るワークショップの最終回。今回のワークショップを通じて感じたこと、これからの篠路のまちづくりへの想いや意気込みなどの「まちづくりへの想い」を書きました。



ご年配の方々から子どもたちまで、みんなが安心して暮らせる地域に！
中山真一



- 10年後の篠路 -



へえー！10年ぶりに来てみたら街並みがすっかり様変わったね。

地域循環バス
篠路駅を起点として、おいの里、太平地区への循環バスが運行され大変便利になったね！

旧琴似川
河川敷の整備により清流になり、小魚もたくさんいるし夜は螢も飛んでるよ。

篠路駅周辺
高架化された駅舎も立派だし、開かずの踏切も無くなり良かったね。

屋台の店も出ているよ！

メダカすくいの子どもたちも楽しそうだね！

連日盛況・食べ物は地産地消で美味しいし、回数券で地産の野菜もいただけるのでまた行きたいね。

チーム参加の出来栄コンテストや抽選会も楽しいね。

ランタンまつり

コミュニティカフェ 和氣藍蓋



若い人、年輩の方と交わる街が良いと思う。
のう

各回とも、貴重な意見が出され今後のまちづくりに向けて大変勉強になりました。今後理想とされる篠路地域の街づくりにおいて大いに参考とさせていただきます。
伊藤英夫

笑顔、しあわせ、和氣あいあい！！篠路が元気になるように
石本依子

今、まちづくりを考える事は子どもたちの未来を考えることだと思っています。「あ～よかったな～」と思える篠路のまちができていいな。
小林洋子



篠路まちづくりワークショップ
『みんなの想い』
～篠路の未来づくりに向けて～

平成 29 年 3 月

謝辞
篠路地区のまちづくりを進めるにあたり、ご協力いただいているすべての皆さまに、心より感謝申し上げます。

発行 平成 28 年度篠路まちづくりワークショップ参加者一同
応援 篠路地区街づくり促進委員会
協力 札幌市まちづくり政策局都市計画部事業推進課
ファシリテーター 足立千佳子
コーディネーター 昭和株式会社

堀江佑典 高橋真有 星学
宮城由典 小林春美

※ 名前は仮名の方もいらっしゃいます



篠路の未来づくりに向けて